



東芝、シャープ、三菱電機、パナソニック、日立、ダイキン、三菱自動車、NEC、KDDI、東京電力の10社連携「HEMSが始動へ」

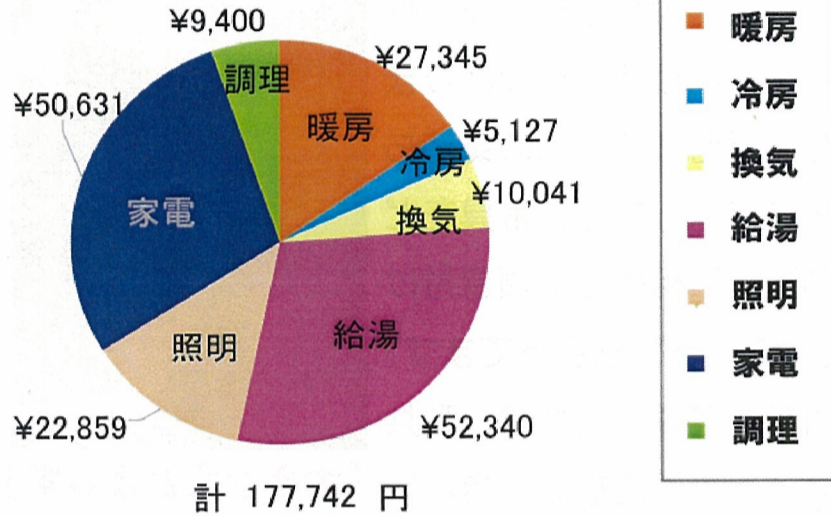
この小さな島国日本のCO2 排出量は世界で何位だかご存知でしょうか？日本は面積と反比例し5位です。とても誇れる事ではありません。国として省エネやECOに取り組んでいるようですが、やはり国民一人一人の意識を高めていかなければ、この順位を下げる事は難しいのではないかと思います。住宅に関しては『省エネ基準義務化』が掲げられて省エネ住宅の普及が加速の一途をたどっています。又、最近の住宅事情は省エネの「見える化」も進んでいます。

CO2排出量が多い国ランキング

▼ 2006年 世界総排出量：29,195.42 (単位:100万トン)

順位	国名	排出量(単位:100万トン)	割合
1	中国	6,017.69	20.6%
2	アメリカ	5,902.75	20.2%
3	ロシア	1,704.36	5.8%
4	インド	1,293.17	4.4%
5	日本	1,246.76	4.3%
6	ドイツ	857.60	2.9%
7	カナダ	614.33	2.1%
8	イギリス	585.71	2.0%
9	韓国	514.53	1.8%
10	イラン	471.48	1.6%

【住宅一棟で使うエネルギーの内訳】



一般的な住宅一棟が消費する電力の中で最も使用料が多いのが、家電より給湯です。通常であれば家電が最も多いと思われがちですが見えないと分からない事もあります。

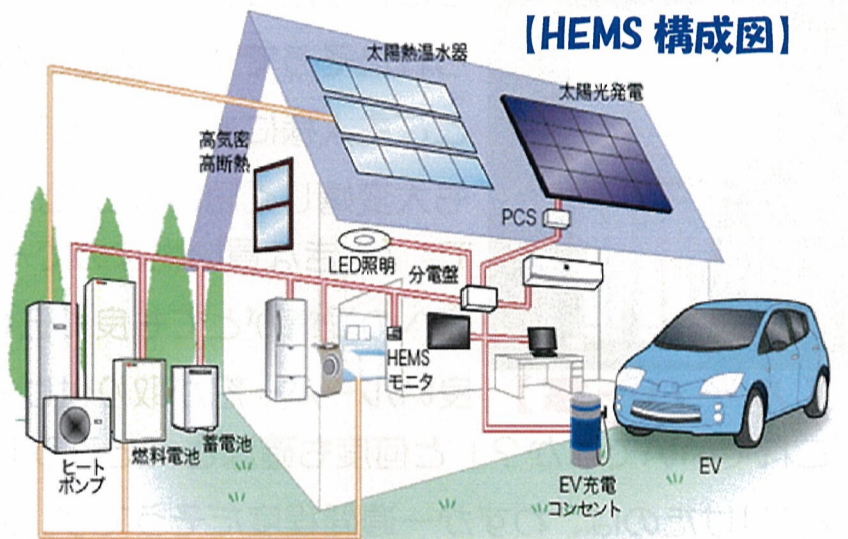
最近、新聞各社でも取り上げられていたのが「見える化」の一步先を行く『HEMS』です。これを東芝など10社が連携して規格を統一化し実用化に向けて動き出しました。

『HEMS』とは消費電力

の見える化モニターと創エネ、住宅内のエネルギー消費機器をネットワーク化し一定の消費電力を超えると、コンピューター制御により使い過ぎている電源スイッチを自動的に切るシステムが備えられています。

無理な節電を行わず省エネ意識が向上し光熱費の節約にも繋がります。

『HEMS』が誕生した背景には、政府の方針で温室効果ガスを2020年には1990年比の25%削減し、更に2050年には80%削減を目標としているからです。これからも、私達一人一人が出来る事は、省エネ、節電を心掛けて生活する事が大切だと思います。



※詳しくは日経新聞7/12号一面をご覧ください

トドのひとり言

東日本大震災に想う

その時トドは何が出来たか！！

6ヶ月過ぎた東日本大震災のニュースは、新聞テレビで目にしない日は無い今日ですが、身体障害者の私でも何か出来ないかと8月に2度宮城県に行ってきました。一度目は8月1日に私が入会している町田サルビアロータリークラブが、町田市より消防自動車を譲り受け、宮城県七ヶ浜町に、ロータリークラブの仲間7人で陸送して来ました。七ヶ浜町の町長のお話では町の3分の1の家屋が流失、または損壊し100名の方が亡くなり、いまだに行方不明者が5名でそのうち2名が消防団員だそうです。2台あった消防車が流され悩んでいた矢先の話だったので大変助かりましたとの事でした。帰りは新幹線の日帰りの強行日程でしたので、少々疲れましたが奉仕活動が重要である事を改めて認識しました。今年度中にあと2台、亘町などに贈る予定です。

2度目は会社の夏休みの13日に妻の郷里の宮城県登米市に行き、親戚にお見舞い廻りをして、気仙沼市に行って来ました。海岸近くの家はほとんど無く、家の基礎だけが残っていました。市役所は外観は大丈夫のようでしたが、街の中の建物は隣同士でも破損した家、助かった家があり、建築上の問題か津波の問題か考えさせられました。テレビで見るより実際に自分の眼で見ると被害の大きさに、カメラを向けて写真を撮る気持ちにはなれませんでした。3年前に美味しいフカヒレ入りラーメンを食べた店や、イカの丸焼きを食べた店等は跡形もありませんでした。一日も早い復興を願うばかりですが、今の政治家には自分が次の選挙に当選する事しか考えていませんね。命を懸けてリーダーシップを発揮する様な人はいませんか。三陸海岸や気仙沼等は通行止めが多く、12日の夜9時に町田を出発して、登米市に着いたのが13日のお昼でした。七ヶ浜町でも、気仙沼でも、地震より津波の被害の方が大きく改めて自然災害の恐ろしさを感じました。

弊社は何をしたか、先ずは3月末に日赤を通じて義援金を送りましたがニュース等を見聞きした限り、何に使われたか、届いているのかいないのか解かりません。なら町田市に非難して来ている人達に何か出来ないかと社長と相談し、「子供達に自転車を贈ろう」と決め、町田市の教育委員会に相談しました。町田市には岩手、宮城、福島より53名の小・中学生が来て居る事がわかり、どんな自転車が良いいのかカタログで選んでいただき、辞退される子供もいて、結局48名の小・中学生に「交通ルールを守り命を大切に買って下さい」との社長直筆のメッセージを添え、ヘルメット、盗難保険証と共に19ヶ所の引渡場所を決め、7月9日に真新しいピカピカの自転車を贈りました。なかには嬉しさ一杯で早速乗って帰る子供もいました。

子供の笑顔を見るのは、心から安らぎます。この件に関しては、市の教育委員会の皆様に大変お世話になりました、ありがとうございました。

会社に嬉しい礼状を何人もの方から頂きました。その一部を編集後記にてご紹介させていただきますので、ぜひご覧ください。

編集後記

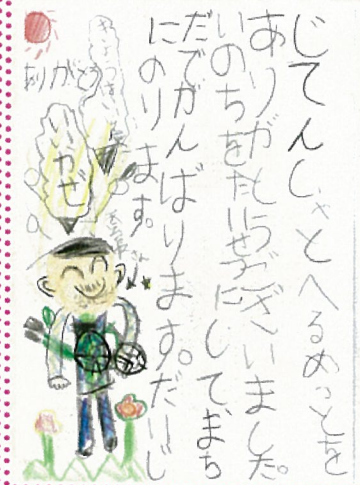
貴社の御心遣い大変嬉しいです。娘も、この寄贈された自転車を大変喜んでおります。私達被災者は、普段の生活を送るのが精一杯で、子供には不憫な思いをさせてしまい、突然のプレゼントに家族一同で大喜びでした。大事に使用させていただきます。これからの貴社様のご発展、そして社員一同様の御健康ご多幸をお祈り申し上げます。私達も一歩ずつ前へ進み、地元へ帰れる日まで頑張ります。

大震災から3ヵ月が過ぎ、まだ毎朝なぜここにいるのだろうか？とひと呼吸してから生活が続いてます。そのような中で子供に自転車を寄贈していただきありがとうございます。それも新しい自転車でもとても喜んでます。子供の喜ぶ姿をパワーにして前に進んでいかなければと思います。本当にありがとうございました。

保護者の方より

この前は自転車とヘルメットありがとうございました。でも、自転車を福島に置いてきてしまった。友達の家に行けなかつたので、自転車をもらったので、少し遠くの友達の家に行き、自転車をたせつと、完全に自転車を買った。命も大人になってしまっている人かたうたすけてあげられる大人になりたいです。

ありがとうございます。



お子様より



人と環境にやさしい家づくり

株式会社 **三和住建**

<http://www.sanwajuken.com/>

東京都町田市忠生3丁目7番地15
本社：042-794-3030
展示場：042-793-4003